



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 28 年 11 月 14 日 第 6 巻 (第 7 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 石巻現地担当着任から 5 か月が過ぎた今
2. 活動報告書
3. 再建された石巻市立病院
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ
6. あとがき

鳥取地震で被災されたみなさま

心よりお見舞い申し上げます

1 日も早い復興を祈念いたします

大切なお知らせがあります

詳細は“4. 災害支援チームからのお知らせ”をご覧ください。

1. 石巻現地担当着任から5か月が過ぎた今

災害支援チーム

石巻現地担当 菊田 駿



I 石巻現地担当着任から5か月が過ぎた今

・震災の経験を聞いて

復興には色々な種類があります。まず、壊れた街やものの復興、道路や建物の再建。そして、同時に必要なのは心のケアであり復興です。災害で大切な人、ものを失ったことによる心のストレスは計り知れないことです。私自身は乗り越えることは出来ないことかもしれないとも感じます。住民さんから直接震災の話をお聞きするうちに、皆さんが心にストレスを感じながらも当時の悲惨な状況乗り越えられつつあるのだなと感じます。5年が経過した今、まるで思い出話のように話してくれる姿を見ると、強さを感じます。私に話してくれた話を今後大規模な地震が起こると言われている地域の方はもちろん、全国の方にも聞いてほしいと思っています。

そして、関わる中で印象に残った話をお2人から聞くことができました。

(※以下の話はご本人から了承を得て書かせて頂きました。)

「3月11日に地震を感じ、夫から「急いで逃げろ」と言われ咄嗟に手製の布のカバンを持ちました。そのカバンは普段は持ち運ぶことのないタンスに入ったカバンでした。いつも、持ち運ぶ革のカバンは目の見える場所に置いてありすぐに持っていけるような状態でした。布のカバンには親戚一同の住所・連絡先が書かれているメモが入っていました。震災後、夫が行方不明になり警察署に捜索届けを出すことになり、家族の住所・連絡先が必要と言われて途方に暮れていたがいつものカバンと違うことに気が付きメモを見て、住所・連絡先の情報を伝えることができたのです。又、布のカバンということもあり避難所では枕代わりにも使うことができました。なぜ、いつものカバンとは違う方を持っていったのか今でも不思議」と話してくれました。

「震災の3か月前に足の骨を折ってしまい治療をしていたのですが、3月11日にリハビリも兼ねて自宅からも遠い所にある、いつもと違うスーパー(市役所)に行った時に地震が発生し市役所職員に倒れていたところを助けられました。又、スーパーで菓子パンやお菓子を買っていたので、結果的に震災3日間はその買っておいた食料に助けられました。もし、買い物に出かけていなかったら自宅は流されていたので、もしかしたら生きていなかったかもしれない」と話をしてくれました。

この2つの話を聞いた時、このような偶然によって今こうして生きているお2人と私がお話できたこと、話を聞かせて頂いたことに心を動かされました。こうした話を聞いたことは石巻に来なかつたら聞くことの出来なかつたことであり、“石巻で支援をしている”と思えた瞬間でもありました。

・復興への動き

今は、段々と仮設住宅から自立再建をされたり、復興公営住宅に入居されたりし、仮設住宅の入居者数は少なくなってきています。このような状況を私の家族や、友人に話をした時に「復興が進んでいて、これから新しい町ができるんだね」と話してくれたことがありました。しかし、私自身は5年近く経っても未だに仮設住宅に残っている人がいるということを受け止めなければならぬと思っています。また、復興公営住宅の整備が進んでいますが、被害の大きかった石巻市はそれだけ時間がかかっています。市によって復興の進捗の差が広がっていると感じます。最後の一人まで再建することが目標であって、ここで終わりというようなゴールはないと思います。

・自分が考えるこらからの課題

復興公営住宅を中心とした新しいコミュニティの形成が課題と感じています。元々いた住民さんと復興公営住宅に移り住んで来た住民さんとの関係を構築していくうえで様々な工夫が必要と話を聞いたことがあります。小さい頃から顔なじみのご近所の人たちと暮らしてきた人にとって、急に知らない人たちと一から関係を築いていく状況は、受け入れる人と入ってくる人、それぞれに不安になっているのではないのでしょうか。コミュニティの形成が上手くいかないと孤立が生まれ、孤独死の発生も危惧しなければならないと思っています。

Ⅱ 石巻市と野球の繋がり



私は小学校から大学まで、野球を続けてきました。野球は今でも大好きな私にとって興味の沸く話題が最近あったので紹介したいと思います。

石巻市には1914年に創部された、石巻日和倶楽部という社会人の野球チームがあります。創部102年の歴史のある石巻日和倶楽部は社会人野球の現在クラブチームとして日本で2番目に古い歴史があることを先日、新聞を見て知りました。又、石巻日和倶楽部は戦後初に石巻で日米野球を行ったチームでした。なぜ、こんなにも寒く野球をするような環境には向いていない石巻で戦後初の日米野球が行われたのだらうと思いましたが、それは単純な理由でした。石巻日和倶楽部の選手とその長男がキャッチボールをしていたところに米軍兵士が通り掛かり、話をしたことが開催に繋がったとのことでした。試合は1945年10月28日、現在の石巻高校運動場で行われました。結果は2-12で石巻日和倶楽部が完敗の結果でした。戦後、わずか75日目の試合だったということ、プロ野球公式戦が復活する半年前というこ

とに驚きました。この試合が市民にとって5年ぶりに見る野球ということもあり、大喜びしたとのことでした。

野球文化の発展に貢献したとして去年、日本野球連盟から特別表彰されました。今は人数不足の問題や練習場の確保が難しく活動自体がぶつけ本番の公式戦のみとのことですが、個人的にとっても興味があります。今後、直接チームへの入部も含めて話を聞いてみたいと思っています。石巻日和倶楽部のユニホームの袖には、翼を付けたペガサス(天馬)があしらわれています。ペガサスは不滅のシンボルでもあります。このユニホームに袖を通してみたいと思いました。プロ野球選手を2名輩出しているため、ついていけない場合はマネージャーのような立場になりそうですが。その後の話は災害支援ニュースの方でお知らせしたいと思っています。



「平成 28 年 10 月 22 日(土) 付け 三陸河北新報社 石巻かほく」 より
石巻中のグラウンドで行われた、石巻日和倶楽部 VS 米軍進駐軍。



「平成 28 年 10 月 23 日(日)付け 三陸河北新報社 石巻かほく」 より
チャリティー試合を行った石巻日和倶楽部と弘前アレッズの選手ら。



2. 活動報告書

総合南東北病院

宮城県 菊地 知憲

活動期間：2016年10月19日

10月19日(水)男のあそぼう会に参加しました。前は台風が宮城県を横断したため、2カ月振りあそぼう会です。今回は春に実施し、もう一度実施したいという希望があった石巻市の桃生町植立公園でマレットゴルフを行いました。マレットゴルフとはスティックとボールを使って、少ない打数でカップインさせることを競うスポーツです。イメージとしてはゴルフとゲートボールを併せたものを想像していただくと良いです。日本で生まれたスポーツで木槌(マレットの語源)を使ったゴルフという意味だそうです。体力を^{きほど}然程必要とせず、お金もあまりかからない為、男女を通じて生涯スポーツとして親しまれ、河川敷や里山にコースが整備されています。ちなみにコースはゴルフと同じ18コースが整備されていました。

当日は現地支援員に同乗し、2名の参加者を迎えるにきました。公園に向かう道中で、参加者同士の近況報告、昔ドライバーをされていた頃の仕事と道路事情に関するお話を聞きながら移動しました。現地に到着し、支援員と参加者で2つのグループに分かれ、マレットゴルフを開始しました。お互いのショットに声を掛け合い、笑いあり、悔しさを感じながら約8ホールをラウンドし、スーパーショットも見られ、あっという間に時間が過ぎました。スポーツは男性のコミュニケーション手段として改めて効果的だと感じました。終了後に、恒例のあいのや弁当を食べ、次回の活動内容



を卓球にすることになりました。最後に、男のあそぼう会に参加されていて、他県に転居された方からリンゴが送られてきており、その方の近況報告が支援員からあり、その後、送っていただいたリンゴを持ちながら、写真撮影を行い、終了となりました。



これまで約2年間、会に参加させていただきましたが、参加者の状態の変化が少しずつ起きているのかなと感じる場面がありました。日常にお酒を飲む量が増えている方、呼吸器機能の低下から息切れが見られる方、手術を予定しているが保証人がいない方等、それぞれが元々抱えていた問題が時間や年齢等の様々な要因の中で変化し、生活に少しずつ影響を及ぼしているのだと思います。男のあそぼう会に参加されている方は、支援員による支援、関係機関との連絡調整を図ることで、支援や対応が図られますが、そうではない沢山の被災者はどうなるのだろうという問題の深刻さを感じる機会となりました。

私も被災地の一つである岩沼市で勤務しており、最近では外来の患者で復興公営住宅にて生活されて

いる30代の引きこもりの男性の支援を保健師と連携している事例があります。日常的な支援では

見えない被災地、被災者の現状を今回の活動参加で確認することができました。

3. 再建された石巻市立病院



石巻市立病院は2011年3月11日に被災し、その機能を失いました。新たに建設されて2016年9月1日診察を開始しました。現在の市立病院を写真で紹介します。



このピアノは石巻市の楽器店で東日本大震災時津波被害を受けました。
世界的なアメリカのロック歌手”シンディ・ローパー”さんが、東日本大震災翌年の平成24年3月に石巻市を訪れその楽器店に来店した時、津波から再生させようとしているこのピアノを見学したことをきっかけに、このピアノの購入を決め、再建する石巻市立病院へ寄付されました。このピアノの再生には石巻市内の篤志の方々も協力しているとのことです。



4. 災害支援チームからのお知らせ

.....

【1. 大切なお知らせ】

☆☆

11月8日災害支援チーム会議において

協力員募集終了

と決まりました

2011年3月11日の発災以来6年間にわたり
石巻をはじめ、近隣の被災地において

ご支援ご協力をいただきましたみなさま

心より感謝申し上げます

☆☆

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程

1月17日（火）予定

時間＝19：00～21：00 場所＝於協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の
販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月



までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、

2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非



ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 11 月下旬

6. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当 金子

11 月半ばになりました。立冬が過ぎて木枯らし 1 号が吹き、本格的な冬支度になりそうです。今年は寒暖の差が大きい日々が繰り返されて季節が過ぎてきました。

石巻現地では仮設住宅の閉鎖と集約とが進行しているようです。石巻市の仮設住宅の供与期間は平成 30 年度・「平成 31 年 3 月末」の予定であり、転居先の決定している住民には最大 6 か月の猶予があるとのことです。（最終集約拠点となる仮設住宅は「平成 31 年 9 月期限」で解体予定）

石巻市ホームページには仮設住宅一覧（平成 28 年 10 月 1 日現在）が掲載されていて、入居戸数：3,039 戸、入居者数：6,459 人とありました。このうちのどれだけの方々が石巻事務所のみなさんの担当地域の仮設に居住されているのか確認してはおりませんが、1 日も早く転居が適い新しい日常が始まることを願うばかりです。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 28 年 11 月 14 日第 6 巻（第 7 号）
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局